

台風23号

災害発生日●平成16年10月19日～21日
 主な被災地●北陸・中部・近畿・中国・四国・九州地方

平成に入って最悪の人的被害 過去最多10個目の台風上陸

2004年に日本に上陸した台風は、この台風23号で10個目。
 1951年の統計開始以来、最多となった。
 10月20日の上陸というのも、観測史上3番目に遅い時期の記録である。
 台風23号は秋雨前線を刺激しながら北上し、
 高波、大雨、土砂崩れ、洪水など、広い範囲に多大な被害を及ぼした。
 人的被害は死者95人、行方不明者3人、負傷者552人。
 住家被害は全壊893棟、半壊7762棟、一部破損1万834棟。



円山川と出石川で堤防決壊 豊岡市で全世帯の半数が浸水

豪雨は各地に深いつめ跡を残した。

台風23号が本州の南側にあった秋雨前線を押し上げながら移動したことが、極端な大雨につながった。

台風23号による水害を象徴するような被害を被ったのが兵庫県豊岡市だ。円山川と

▼円山川の堤防決壊で冠水した豊岡市街〔写真提供／読売新聞社〕



いずし
出石川が氾濫し、市内は泥水の海のように
なった。浸水は全世帯の半数以上に及び、
豊岡市役所、公立豊岡病院、国土交通省豊
岡河川国道事務所、豊岡測候所、兵庫県豊
岡総合庁舎なども浸水した。

その経緯を見ると、予想を超える雨のす
さまじさがわかる。台風23号は、兵庫県北
部に継続的な大量の雨を降らせた。中貝宗
治豊岡市長によれば、10月20日午後1時ごろ
から雨が強くなったという。

川の流量が急激に増加し、18時過ぎには
避難勧告が発令された。しかし、水位の上
昇は最大で1時間に約15mという非常に急ピ
ッチなものだった。すでに発令時には危険
水位の6.5mに迫っており、それから1時間も
たたない19時には7mを超えてしまったほ
どである。

この段階で、支流のポンプを止めざるを
得なくなった。これ以上支流の水を円山川
に汲み出すと、本流の円山川の堤防が決壊
する恐れがあるからだ。国土交通省豊岡河
川国道事務所がマニュアルに沿って下した
判断で、被害を最小限に食い止めるための
手段だった。内水氾濫の危険は伴うが、本
流が氾濫した時の被害の大きさは、内水氾
濫の場合とは比べものにならないからだ。

しかし、こうした努力を続ける一方で雨
は降り続け、ついに23時過ぎ、市内で円山
川の堤防が決壊、街に濁流が流れ込んだ。
この時はすでに上流の支流、出石川も堤防
が決壊していた。

避難指示を受けたのは約4万2000人だが、
増水があまりにも急激だったこともあり、
実際に避難できたのは約3300人に過ぎない。
数百世帯が水の中に取り残され、救助され
ることになった。復旧にも時間がかかり、
被災した人々の避難生活は何日間にもわた
った。

兵庫県ではほかにも、淡路島で洲本川が
氾濫した。もともと淡路島は水が不足しや
すいため、川をせき止めて作ったため池が
多い。それが異常な大雨で決壊し、2人の死
者が出るほどの災害となった。

香川県の東かがわ市では、観測史上最大
の日雨量333mmを記録。さぬき市を中心
に香川県東部で土石流被害が相次ぎ、県全
体で11人が犠牲となった。香川県内では、
避難勧告の対象となった人は10万人以上
に上る。岡山県では住宅の裏山が崩れ、一
瞬にして7棟が全半壊した。このほか愛媛
県、兵庫県、京都府、岡山県、岐阜県
でも土砂災



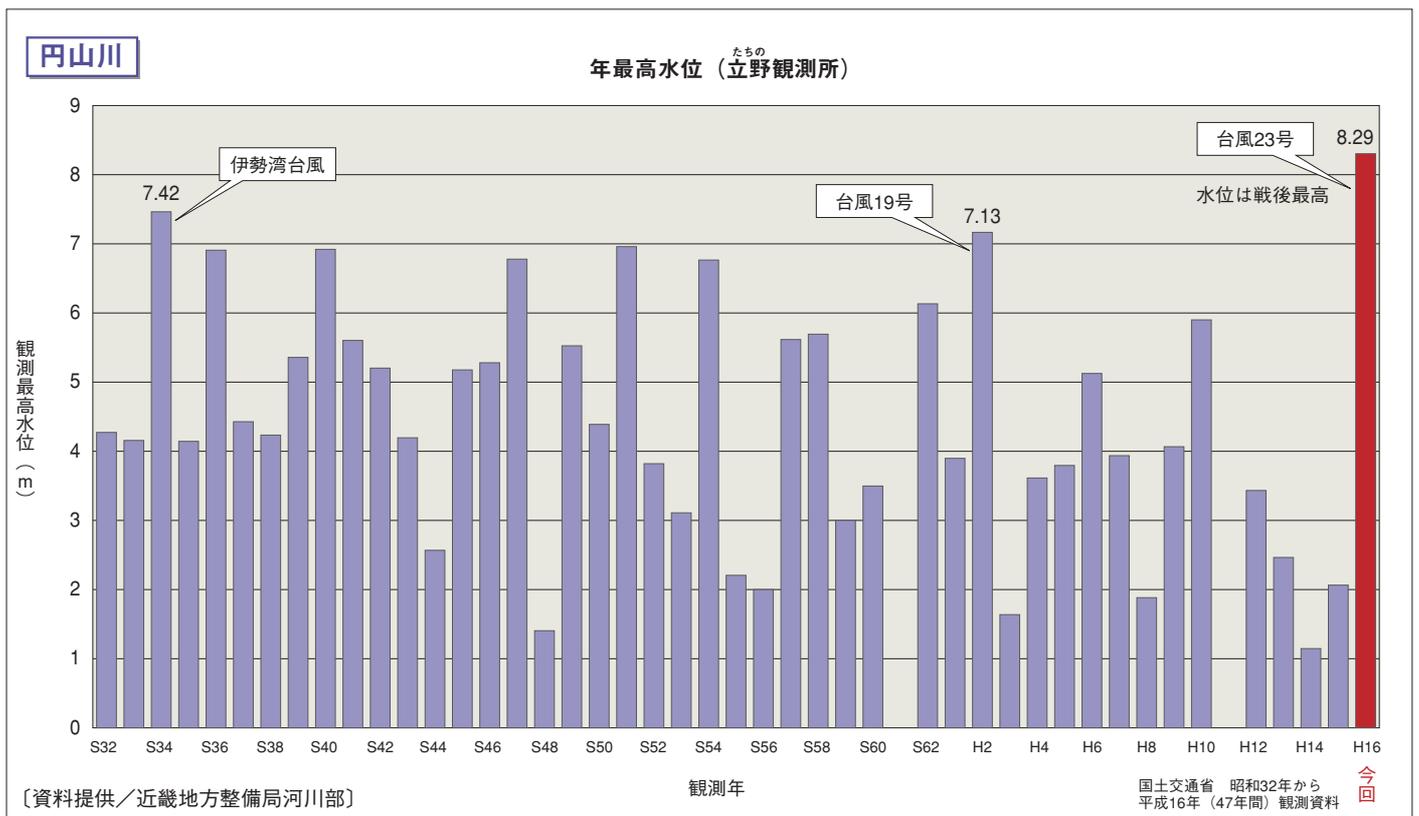
▲円山川支川の内水氾濫で冠水した豊岡市街〔写真提供／読売新聞社〕



▲京都府宮津市滝馬地区で発生した土石流〔写真提供／京都府土木部〕



▲公立豊岡病院の駐車場で水没した乗用車（兵庫県豊岡市立野町）〔写真提供／毎日新聞社〕



害による死者が発生するなど、台風23号による土砂災害は800件にのぼり、死者も27人に及んだ。

九州地方では長崎県、大分県、宮崎県で計4人が死亡。床上・床下浸水被害は大分県で約900棟、宮崎県で約1000棟となっている。

河川の堤防決壊による被害も甚大だった。徳島県の吉野川では観測史上最大の流量となり、支流が氾濫した。浸水の被害は、床上・床下浸水合わせて約3800戸に及んだ。

濁流の中で観光バス孤立 ダム放流を遅らせ人命救助

豊岡市の災害と並んで全国の目を引きつけたのは、京都府舞鶴市である。由良川が氾濫し、国道175号が水没、その中に観光バスが取り残されたからだ。この場所では通常、由良川の川幅は150m程度。それが、水量を増し、3倍ほどにふくらんだ。

10月20日、福井県の芦原温泉から帰る途中だった観光バスに乗っていたのは37人。前後を走っていた自動車に挟まれる形で立ち往生するうちに水かさが増し、観光バス、

トラックなど四十数台が逃げられなくなった。

21時過ぎには車内が浸水し始めたため、乗客は窓ガラスを割り、屋根に避難した。それから約9時間、乗客は互いに歌を歌うなどして屋根の上で不安や寒さに耐えた。

京都府管理下の大野ダムは、バスの乗客を助けるため、緊急放流を遅らせた。21日朝になって海上自衛隊のヘリコプターや京都府警のゴムボートで全員が救出されたが、その様子がテレビなどで報道され、洪水の恐ろしさを全国に知らしめた。

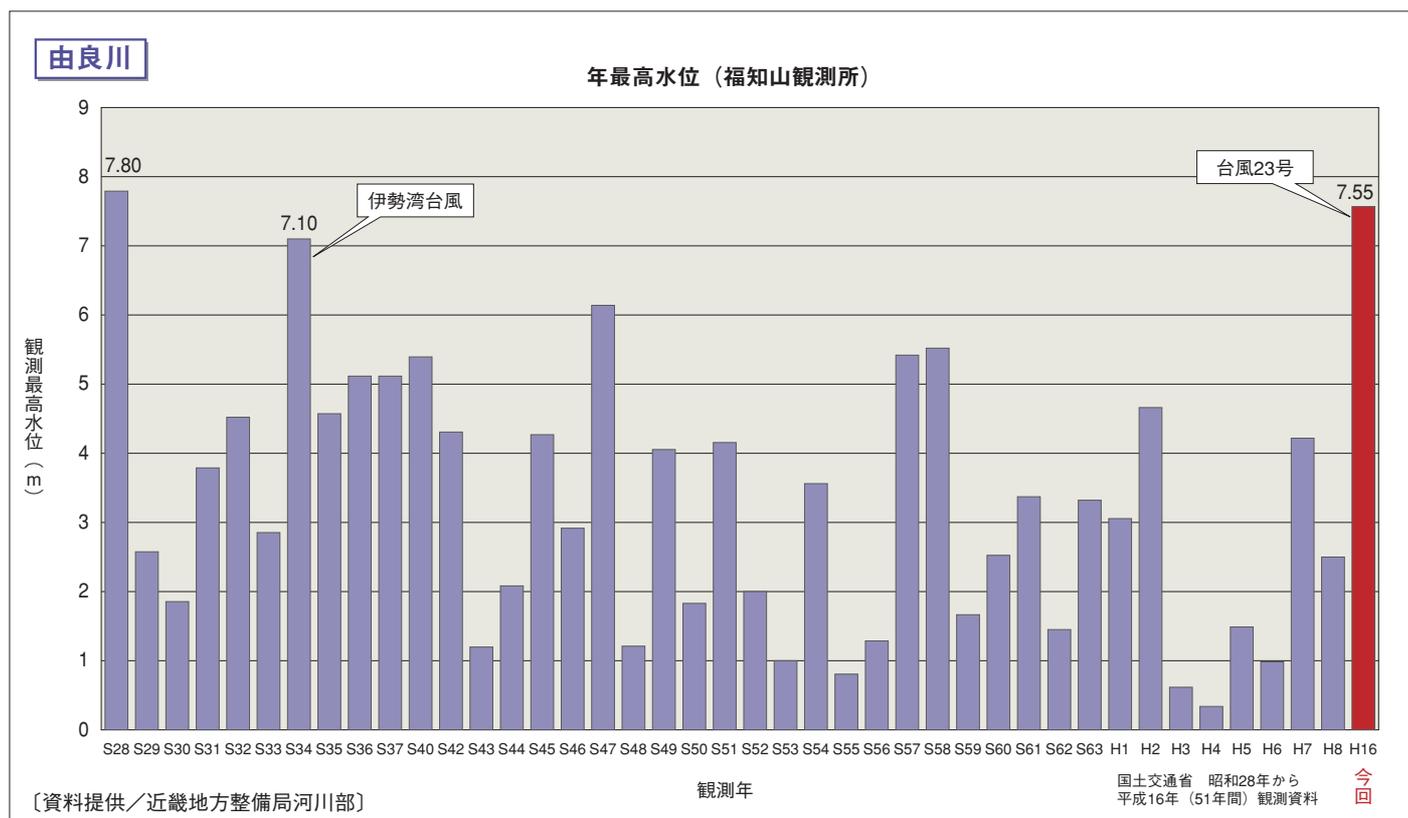
京都府では、舞鶴市をはじめ北部に被害が集中。大江町で町役場が浸水、宮津市でも民家の裏山が崩れて4棟が全壊するなどした。そのため府内の死者は15人に上った。

国内観測史上最大の高波 破損した堤防が民家を直撃

台風23号は10月23日、高知県土佐清水市に上陸し、高波による被害が発生した。同県室戸市では13.5mの有義波高を記録し、こ



▶ 由良川の氾濫で国道175号に取り残された観光バス（京都府舞鶴市）〔写真提供／読売新聞社〕





▲高波で破壊された堤防と住宅（高知県室戸市）〔写真提供／読売新聞社〕



▲富山港の防波堤に座礁した練習帆船「海王丸」〔写真提供／読売新聞社〕

これは全国港湾海洋波浪情報網（ナウファス）の観測史上（昭和45年～）最大となった。

この波が堤防を約30mにわたり倒壊して、流失したコンクリートとともに堤防沿いの民家13件を直撃し、住民3人が死亡した。この人的被害、家屋被災の原因は、堤防を乗り越えた水塊が背後の家屋を被災させるとともに、堤防の倒壊・流失により被害を拡大させた。この堤防の被災形態は、これまでの海岸災害では見られないものであった。

**死者・行方不明者98人
人的被害は平成で最悪に**

この台風で、車社会の弱点が浮き彫りになった。自動車を運転中に冠水した道路で身動きが取れなくなり、犠牲となるケースがみられた。各地方自治体が出す避難指示や避難勧告は住民が対象で、車で移動中の人は想定していないためだ。また、道路を通行止めにする基準は雨の量で定めるのが一般的で、川の水位が通行止めの基準となっていないことも遠因となった。

船舶も数多く被害を受けた。富山港に停泊していた独立行政法人航海訓練所所属の練習船「海王丸」（2556t、乗組員167人）が強風で漂流、約7km南の岩瀬漁港防波堤に衝突した。船が航行不能となっただけでなく、衝突時に負傷者も出た。また九州でも、鹿児島市加計呂麻島沿岸でパナマ船籍のコンテナ船が座礁した。

J R 高山線も大きな被害を受けた。鉄橋の流失や崩落などが発生し、J R 東海の記者発表によると「復旧に1年以上、被害額は100億円を超える」という。平成17年3月1日現在、J R 高山線は飛騨古川駅－猪谷駅間が不通となっている。

人的被害が極めて大きかったことも、台風23号の特徴である。死者は平成に入って最悪だった平成3年（1991年）の記録を塗り



▲円山川の決壊現場を視察する小泉純一郎内閣総理大臣（10月27日）〔写真提供／近畿地方整備局河川部〕

替え、当時の台風19号で出した死者62人を大きく上回る98人（行方不明3人含む）に達した。原因は、土砂災害、川への転落、高波にさらわれる、車ごと流される等であった。また、半数以上が65歳以上の高齢者の方であった。

台風が去った後のゴミ処理も大きな負担となった。舞鶴市では一日の処理能力の約27倍のゴミが集まり、豊岡市でも年間のゴミ総量である2万2000tを上回り、推計3万tの災害ゴミが出た。ゴミは量の多さだけではなく、水害によるため水を含んで重いことや、衛生上の問題も大きな悩みとなっていた。また、河口などでは大量の流木が漂着する被害も大きく、港の機能を停止させた。

このように台風23号は、通り過ぎた後も長く尾を引く災いをもたらしたのである。



▲大量の流木で崩壊したJR高山線川上川の鉄橋（岐阜県高山市冬頭町）〔写真提供／読売新聞社〕

【インタビュー】

INTERVIEW

想像力を働かせて水害に備える

～内水氾濫常襲地域を襲った破堤氾濫～



兵庫県 豊岡市長
中貝宗治氏

台風23号による大雨で^{まるやま}円山川の堤防が決壊、市民の約9割に当たる4万2000人に避難指示を出すという事態になった豊岡市。地方自治体の多くにとって、その過酷な経験は決して他人事ではないだろう。当日の状況や今後への提言について、豊岡市長の中貝宗治氏に伺った。

●被災当日の様子を教えてください。

円山川の堤防決壊は、^{みそう}未曾有の体験でした。この辺りは低い土地で、水害といえば通常、内水の氾濫なんです。ところが、国土交通省豊岡河川国道事務所長から16時ごろ、「このままでは、円山川本流が21時には堤防を越えてしまう」という連絡を受けました。異例の事態でした。

そこで、避難勧告発令の検討を始めました。最初は病院や老人ホームに避難勧告の可能性あることを伝達し、市の施設を開けておく手配もしました。この時はまだ「雨がやむのではないか」という淡い期待も^{いすし}あったのです。後で知ったことですが、上流の出石川の状況もかなり危険で、17時には出石町で避難勧告が出ていました。現在の情報連絡体制では、上流に位置する市町村から豊岡市に情報は伝えられません。上流からの生の声が伝えられると、より適切な対応が取れるのではないかと思います。

豊岡市では、18時05分には避難勧告を、

19時過ぎには避難指示を出しました。

23時過ぎにとうとう円山川本流の堤防が決壊。暗闇の中で濁流が市民を襲いました。

●防災に役立ったことは？

ありがたかったのは、こちらから指示を出す前に、消防団、区長、民生委員などが早め早めに動いて、高齢者や障害者を安全な場所に移してくれていたことです。そのおかげもあって死者が1人だったことは、災害の規模を考えると奇跡的なことかも知れません。亡くなられた1人の方もいったん避難所に避難された後、夜に自宅に戻ってから被害に遭われました。

昨年度、防災行政無線を各家庭に配備したのですが、これが避難勧告、避難指示の際、非常に役に立ちました。「こんなものは要らない」と言った方もいたし、私自身も、いつ役立つかわからないものに大金を投じること*にいささか批判的*だったのですが、今回、その効果を痛感しました。

●他の首長へアドバイスするとしたら？

まず、不測の事態への「想像力」を働かせること。そして、人は動かないものと思っ**て策を打つ**こと。避難勧告しても逃げない人がかなりいたので、伝え方も考えなくては**いけません**。また、行政にも限界があり、マクロのレベルで手を打っても、災害が広範囲にわたる場合、ミクロのレベルですぐには動けないということを知ってもら**うことも大切**です。

●河川管理者への要望はありますか？

余裕を持って行動できる中間段階での情報を流すべきだったという反省はあります。そのためにも水位予測をもう少し刻みにもらえればと思います。私は首長として、自分の責任において避難勧告などを出します。

ですから国土交通省には、その意思決定に役立つ情報をどんどん伝えていただきたい**と思います**。